

災害が起こったら… ～あなたはAさん？ Bさん？～

ペットとの同行避難の状況は、日頃の備えで大きく変わります。
Aさん、Bさん、2人を例に災害発生からの1週間を見ていきましょう。

日頃の備え

ペットのしつけと健康管理

Aさんの場合

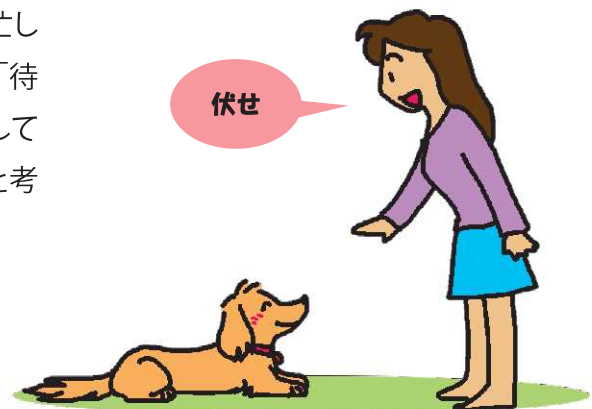
ペットを飼い始めたAさんは、獣医さんのアドバイスで、必要なワクチン接種や、寄生虫を駆除し、「待て」、「おすわり」等の最低限のしつけと、万が一に備えてケージに慣らす訓練をしていました。



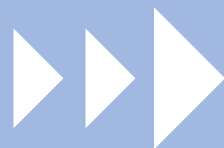
Bさんの場合

ペットを飼い始めたBさんは、ワクチン接種や寄生虫を駆除しようか悩みましたが、忙しかったので後回しにしていました。また、「待て」、「おすわり」等の最低限のしつけはしていましたが、ケージに慣らす必要はないと考え、訓練していませんでした。

※狂犬病予防接種は毎年1回行う必要があります。

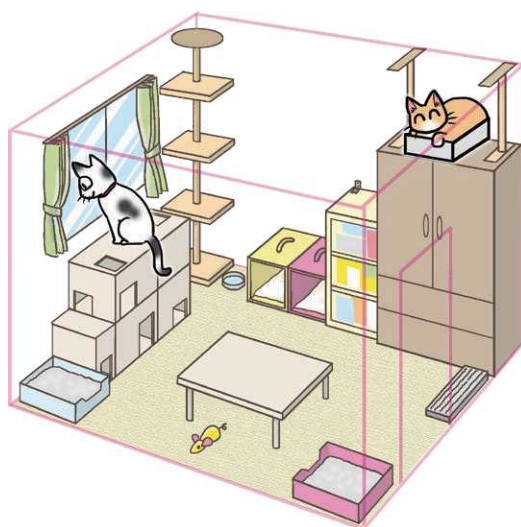


住まいや飼養場所の 防災対策と備蓄



万が一に備えて飼い主明示も忘れずにしよう。

室内飼養していたAさんは、災害に備えて家具の固定やガラスの飛散防止対策をしていたほか、5日分の非常食などをまとめた防災バッグの準備に加えて、ペットの避難セットも準備していました。



室内飼養していたBさんは、5日分の非常食などをまとめた防災バッグの準備はしていましたが、ペットの避難セットの準備や避難所の確認はしていませんでした。



発災

発災時の避難について(大地震)



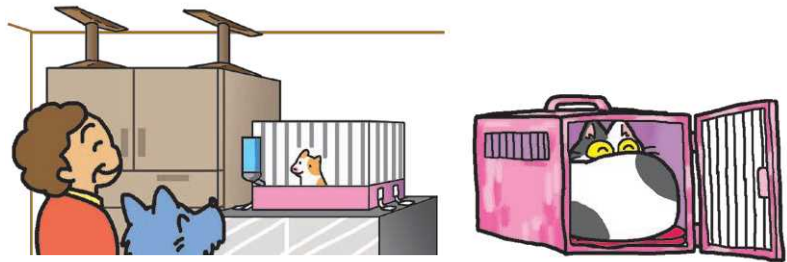
メモ

自宅が安全な場合は
在宅避難(自宅内避難)も考えよう!

Aさんの場合

Aさんの部屋では、地震によって壁にひびが入りましたが、家具を固定し、ガラスの飛散防止フィルムを貼っていたため怪我もなく、おびえていたペットもケージに逃げ込んだため無事でした。

Aさんは余震に備えてペットとともに避難することにしました。



Bさんの場合

Bさんの部屋では、本棚や食器棚が倒れ、ガラスが割れて床に散乱したため、室内を移動した際に軽傷を負ってしまいました。また、地震におびえた猫は物陰に隠れ、呼んでもなかなか出てきませんでした。

Bさんは、なんとかペットを助け出し、一緒に避難することにしました。



ペットとの同行避難

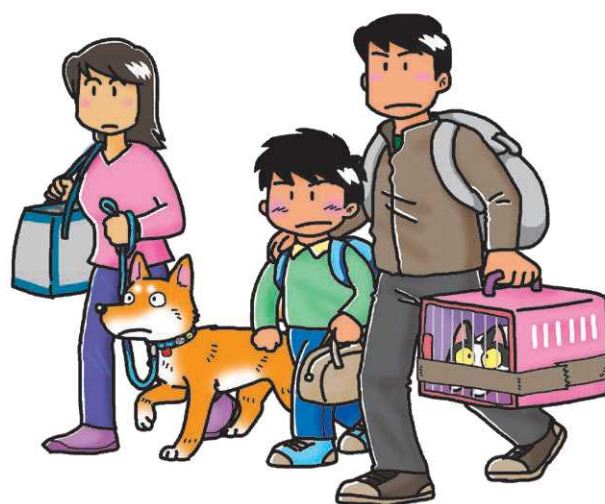


メモ

多頭飼育の場合、全てのペットを連れて逃げられるよう、準備しておこう。

Aさんは、避難セット(人用、ペット用)とケージを持って、ペットの受入れが可能な避難所へ同行避難しました。

平時からハザードマップをもとに避難所までの安全なルートを確認を行っていたため、比較的スムーズに到着できました。



Bさんは、自分の防災バックを持ち、ペットを抱えて一番近い避難所へ向かいました。

途中、狭い路地で塀が倒れ、何ヶ所か通れない場所があったため、避難所に着くまでには長い時間がかかりました。



避難所での受入れ



メモ

ペットの情報をまとめておくと便利。



Aさんの場合

Aさんが向かった避難所ではペットも受入れており、Aさんはペットの情報を把握していたため、スムーズに受入れをしてもらえました。また、ケージに慣れていたので、ペットも落ち着いており、他の避難者やペットとトラブルを起こすことはありませんでした。



Bさんの場合

Bさんは避難所になんとかたどり着きましたが、その避難所ではペットを受入れていませんでした。ペットを受入れている避難所が、どこにあるのかわからなかったため、ペットとともに避難所の外で一晩を過ごすことになりました。



避難生活

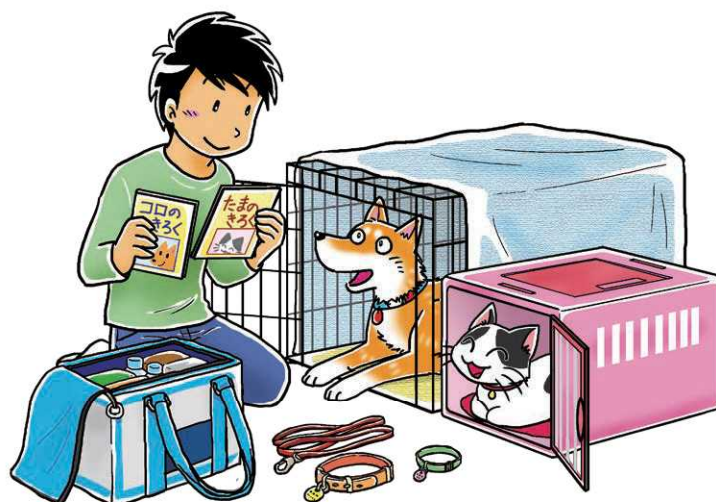


メモ

支援物資が届くまでは5日程度かかる場合も!
それまで持ちこたえるのは飼い主の責任。

Aさんは、避難セットとしてペットフード5日分を準備していたので、混乱する避難所の中でも、ペット用の支援物資が届くまで、これをペットに与えることができました。

2日目には避難所の方針でペットと人間のエリア分けが行われましたが、日頃からのしつけのおかげで問題なく対応することができました。



翌朝Bさんは、ようやくペットの受入れが可能な避難所に着きましたが、ペット用の避難セットを準備していなかったため、支援物資が届くまでは自分の食べ物から分け与えるのがやっとでした。

また、ケージなどを持っていなかったため、ペットが落ち着かず、Bさんが近くに居ないと吠えてしまい(鳴いてしまい)、肩身の狭い思いをしました。



避難生活

メモ

長引く避難生活に備えてペットの預け先を決めておこう！
民間の借り上げ仮設住宅ではペットが飼えない場合も。

Aさんの場合

避難生活が1週間を超え、Aさんはペットの状況も考えて、ペット用シェルターに預けることにしました。ワクチン接種や寄生虫の駆除が済んでいることが利用条件でしたが、Aさんのペットはワクチン等を接種していたため、すぐに預けることができました。これによって、昼間は自宅を片付け、朝夕にペットの面倒を見ることができるようになりました。



Bさんの場合

避難生活が1週間を超え、Bさんはペット用シェルターに預けようとしていました。しかし、ワクチンの接種や寄生虫の駆除が条件だったため、動物病院を探すなど、預けるまでに時間がかかり苦労しました。



まとめ

あなたはAさん? Bさん? どちらになる可能性があるでしょうか。

この例のように、普段から災害への備えをすることや、情報を収集することが、災害時に大きな差になってしまふことがあります。



何を、どのように備えればよいのかは、

一般飼い主向け

人とペットの災害対策ガイドライン

を参照して下さい。